

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【高砂小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、個人差が大きいことから個別に必要な支援を講じていく必要がある。「ドリルパーク」「スタディサプリ」等の、個別に蓄積されたデータを効果的に活かしていきたい。国語は「話すこと・聞くこと」についての内容を重点領域とし、教科横断的に「話すこと・聞くこと」についての学びを深められるようにする。算数は引き続き図形領域の学習を重点とし、ICTと具体物を効果的に用いながら児童が理解を深められる学習について研修を進めたい。R7年度の全国学力・学習状況調査等で引き続き改善状況を検証していきたい。
思考・判断・表現	カリキュラムマネジメントを推進し、各教科を横断的に関連づけながら大胆な授業を展開していく必要がある。さらに、ICTを有効的に活用できているかという課題もある。根拠をもとに自分の考えを発信することを重点課題とし、どの教科においても根拠を示しながら考えたり、ICTを有効的に活用しながら表現したりする活動を推進したい。

今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>算数の図形領域における正答率が低い。<指導上の課題>児童が反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分である。 <学習上の課題>自己の学びをメタ認知し、次の学習につなげていく力が弱い。<指導上の課題>児童が自らの学びを振り返る時間を確保できていない。	「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、反復・習熟に取り組む【毎授業で習熟の時間を設定】。授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学習に生かせるようにする。【毎時間設定】また、児童の振り返りをもとに、児童にとって必要感のある課題を設定したり、児童が主体的に課題に取り組む場を設定する【毎授業で実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題>複数の資料を関連付けて考察する問題の正答率が低い。<指導上の課題>児童が複数の資料から自己の考えを構築する時間の設定が不十分である。 <学習上の課題>自己の考えを伝え合う活動に対して意欲的でない場面が見られる。<指導上の課題>協働的な学びを通して、学びが深まるような授業が少ない。	児童が作品やレポートを作成する際に、複数の資料やデータをもとに自己の考えを構築できるようにする。【学期ごとに単元を決めて実施】活動の中にICTの効果的な活用を位置付け、協働的な学びを通して自己の考えを表現したり、深めたりすることができるようにする。【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】。

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	授業の始めや終わりに「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む流れが確立できてきている。スタディサプリの活用も増えてきている。多くのクラスが授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定した。また、児童の振り返りをもとに、児童にとって必要感のある課題を設定したり、児童が主体的に課題に取り組むよう、発問や授業改善に取り組んだ。
思考・判断・表現	B	活動の中に共同編集を位置付けたり、オクリンクプラスの研修を実施し、各教員が授業に取り入れたりしたことで、協働的な学びにつなげることができ、自己の考えを表現できる児童が増えてきている。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上を達成することができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語への関心が高く、「国語の勉強が好きだ」という質問に対して当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童が約80%であった。また、記述式の問題でも無回答率が低いことから関心が高いことがわかる。自分の考えが伝わるようにするための書き表し方の工夫に関する問題や取材メモ(事実)をもとに、自分の考え(意見)を書く問題の正答率が低くなっていることから、自分の考えを文章に書き表すことに対して課題があるといえる。
思考・判断・表現	計算問題や図形に関する選択式の問題等の正答率が高くなっていることから、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているといえる。「変化と関係」領域の「速さ」における記述式の問題において正答率が低いことから、問題場面と生活場面とを結び付けて考えることに課題があると考えられる。「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」における、肯定的な回答の割合は87%であることから、授業の中で問題場面と普段の生活場面との結び付きをさらに意識できるような取組を継続して行っていく。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「正しい漢字を文の中で使うことができる」において高い正答率がみられた。その漢字の意味を考えようという問いができてきていると考えられる。算数において、基本的な計算問題については、どの学年でも高い正答率がみられた。毎時間、練習問題に取り組む時間を設けるよう授業改善に取り組む。
思考・判断・表現	国語においては、「話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができる。」「相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができる。」「に課題が見られた。交流の仕方や、実際の生活を結び付けて考えていく必要がある。算数の図形領域では、面積を求める設問の正答率はよかったものの、図形の角、展開図、作図等の設問では、引き続き本校の課題であるといえる結果が見られた。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	授業の始めや終わりに「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む流れが確立できてきている。振り返りの時間を設定しているが、時間内に実施できない時もあるため、タイムマネジメントをしっかりと行っていく。	変更なし
思考・判断・表現	B	活動の中に共同編集を位置付けたり、オクリンクプラスの研修を実施し、各教員が授業に取り入れたりしたことで、協働的な学びにつなげることができ、自己の考えを表現できる児童が増えてきている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)